

教育研究業績一覧

I. 著 書

番号	著 書 名	単著・共著の別 (トップネーム、他何名)	発行所及び発行の 年 月 日 (西暦)	全体の分担ページ (p. ～p.)
A.	著書			
1.	学力UPの心理学	共著 監・編著者：斉藤 勇 執筆者：福井至・富士原 光洋，高野隆一・望月 享子岡野邦夫・石橋達 也・野嶋栄一郎・蘭 千 寿・田島晶子	誠信書房 1990年10月5日	総ページ数 230 ページ 担当部分：P1～P26 第1章 効果的な学習法ー学習のメカ ニズムと学習の仕方ー 学習，記憶，知能，創造性，動機付け， 教育学などの学力に関わる心理学的 知識を平易に解説した心理学の入門書。 第1章においては，学習心理学の基礎的 事項である「レスポンド条件付け」 「オペラント条件付け」「観察学習」と いった学習の基本的メカニズムと「学習 曲線」「集中学習と分散学習」などにっ いて。また，SQ3R法などの効果的学習 法と学習習慣といった事項について，具 体的な日常場面を例に10のトピックス に分けて平易に解説した。
2.	心理学セミナー	共著 監・編著者：根建金男 執筆者：石川利江・市 井雅哉・福井至・佐々 木和義・山田豊明・小 川 亮，福田一彦・千 葉浩彦・根建金男・河 合美子・越川房子・大 橋靖史	鷹書房 1991年4月5日	総ページ数 198 ページ 担当部分：P43～P60 第3章 知能・創造性 日常生活をより良く生きるために必 要と考えられる心理学の領域を主に解 説した大学生用の心理学のテキスト。知 能については，知能観と知能の定義，知 能のモデル，知能検査，知能指数・知能 偏差値，知能指数や知能偏差値の恒常性 と変動，知能の発達，知能発達を決める 因子の項目立てで，創造性については， 創造性の因子，創造性の測定，知能と創 造性，創造性と学力の項目立てで解説し た。
3.	地域・情報・文化 札幌大学女子 短期大学部創立 25 周年記念論文 集	共著 札幌大学女子短期大 学部創立 25 周年記念 論文集編集委員会 委員長 芸林民夫	響文社	総ページ数 459 ページ 担当部分：P161～P176 II. 情報と教育・経営 女子学生にお ける理想の女性像と自己概念そして自 己教育力について 福井至・佐藤勝彦・能登洋子・天正昌昭

4.	心理アセスメントハンドブック	共著 執筆者:上里一郎・秋山俊男 他 59 名	西村書店 1993 年 9 月 20 日	総ページ数 577 ページ 担当部分: P549~P563 第 40 章 行動論的アセスメント 心理アセスメントの代表的な技法を取り上げ、特徴、効用と限界、研究の動向、具体的ケースなどについて解説したハンドブック。第 40 章の行動的アセスメントにおいては、まず行動変容における診断の過程である行動論的アセスメントの特徴を解説し、次に行動論的アセスメントの進め方を行動面、生理面、認知面といった 3 側面から具体的に解説した。そして、最後に行動論的アセスメントをめぐる今後の課題について論じた。
5.	はじめて学ぶ心理学	共著 監・編著者:木村 裕 執筆者:木村裕・中村延江・木島恒一・石川利江・高橋伸子・福井至・山田豊明・大橋靖史・吉野俊彦・寺川志奈子・龍ヶ崎隆司	ソフィア 1994 年 4 月 15 日	総ページ数 193 ページ 担当部分: P111~P136 第 IV 章 その人らしき性格と知能 心理学の基礎的な事項だけに絞って平易な言葉で解説した短大や専門学校生用のテキスト。IV 章その人らしき性格と知能においては、まず性格について、あなたらしさとは (性格の定義)、性格をどう見るか (類型論と特性論)、性格はどのようにしてつくられるか (性格の形成と変容)、あなたらしさを知る方法 (性格検査) の項目立てで解説した。また、知能については、知的な能力にはいろいろな面がある (知能の定義と知能の構造)、知能の測り方 (知能指数、知能偏差値、偏差 IQ)、知能検査の種類 (個別知能検査と集団知能検査)、知能指数は変わるか (知能の恒常性、遺伝と環境)、知能が高ければ優秀なのか (知能、創造性、学力) という項目立てで解説した。
6.	現代心理学の基礎と応用	共著 執筆者:岩本隆茂・大坊郁夫・高橋憲男・川俣甲子夫・濱保久・田山忠行・和田博美・福井至	培風館 1995 年 4 月 26 日	総ページ数 279 ページ 担当部分: P184~P191 9-1 教育への応用と展開 : P209~P215 9-4 経営と経済への応用と展開 現代の心理学の研究動向を理解できるように、心理学の基礎研究と応用研究を解説したテキスト。「第 9 章 心理学の

7.	いま家族は、そして今後	札幌大学公開講座運営委員会編	札幌大学公開講座運営委員会 1996年3月30日	展開と応用」の「第1節 教育への応用と展開」においては、教育心理学、教育評価、教育工学、ティーチング・マシンから CAI への発展、授業設計法の進歩の項目立てで解説した。また、第9章の「第4節 経営と経済への応用と展開」においては、経営心理学、行動経済学の項目立てで解説した。 総ページ数 186 ページ 担当部分：P127~163 システムの家族療法に基づく家族療法の実際の事例研究等を用い、今日の家族の抱える問題とその解決法について考察した。
8.	認知行動療法の理論と実際	共著 編集者：岩本隆茂・大野 裕・坂野雄二 執筆者：青木寛之・池淵恵美 他 22 名	培風館 1997年9月22日	総ページ数 279 ページ 担当部分：P234~249 認知行動療法の理論と、臨床現場におけるさまざまな実践例をまとめた解説書である。「2 2章 Computer-Assisted Counseling と認知行動療法」においては、まず、Computer-Assisted Counseling(以下 CAC と略記する)の歴史について解説し、認知行動療法が CAC に適していることを明らかにした。次に、これまでに効果が確認されている認知行動療法に基づく CAC プログラムである Wagma(1980)の PLATO Dilemma Counseling System, Selmi(1982)の認知療法に基づく CAC システム、そして福井・西山(1995)の論理情動療法に基づく CAC システムについて解説した。
9.	人はなぜ人を恐れるか	共著 編集者：坂野雄二・不安・抑うつ研究会 著者名：坂野雄二	日本評論社 2000年2月20日	総ページ数 229 ページ 担当部分：P141~P151, 太っていると人から思われるのが怖い 本書は、社会恐怖の概念について、理論とその治療の実際を最新の知見にもとづいてまとめたものである。第2部私の出会った患者さんの「太っていると人から思われるのが怖い」は、太っていると人から思われるのが怖いという社会不安症状を訴え、学生相談室に来談し

10.	はじめて学ぶ心理学 第二版	共著 執筆者代表：木村 裕 著者名：五十嵐靖博・ 稲木康一郎・乙部和 昭・木島恒一・龍ヶ崎 隆司・所正文・中村延 江・福井至・麦島剛・ 吉野俊彦	アートアンドブレ－ ン 2000 年 5 月 31 日	た女子短期大学生のケースを紹介したものである。具体的には、著者の提唱した Depression and Anxiety Cognitive-behavior Model に基づく認知行動療法によって、六週間という短期間で社会不安障害の治療が終結し、六ヶ月後のフォローアップにおいてもその治療効果が維持された症例を紹介したものである。 総ページ数 210 ページ 担当部分：P87～P101 7.性格と知能 心理学の基礎的な事項だけに絞って平易な言葉で解説した短大や専門学校生用のテキスト。7.性格と知能-その人らしさ-においては、まず知能については、(1)知能の定義、(2)知能の構造、(3)知能の測定という項目立てで解説した。性格については、(1)類型論と特性論、(2)性格の測定の項目立てで解説した。さらに、パーソナリティの形成については、(1)遺伝と環境、(2)環境的要因の項目立てで解説した。
11.	アニマル・セラピーの理論と実際	共編 編集者：岩本隆茂・福 井至 著者名：岩本隆茂・内 田佳子・福井至・坂本 道子・山田弘司・野沢 譲治・森伸行	培風館 2001 年 12 月 日	総ページ数 217 ページ 動物(介在療法)の理論と実際の実施例について解説した解説書である。「第6章 抑うつと動物介在療法」においては、動物介在療法の抑うつ低減効果を実験的に検証したこれまでの研究について詳細に紹介した。
12.	抑うつと不安の関係を説明する認知行動モデル	単著	風間書房 2002 年 1 月 31 日	総ページ数 182 ページ 抑うつと不安の相関関係を説明する認知行動モデルの構築と検証を行った10の調査研究と4つの実験研究について詳述した専門書である。また、このモデルを用いた認知行動療法の実際のケースについても詳述している。本書によって提唱された、抑うつと不安の関係を説明する認知行動モデルは実証された抑うつと不安の相関関係を説明できる世界初の認知行動モデルであり、これによりうつ病性障害と不安障害の合併の問題の説明が可能となった。
13.	健康心理カウンセリング概論	共著 日本健康心理学会編	実務教育出版 2003 年 7 月 30 日	総ページ数 139 ページ 担当部分：p.82

		編集責任者:佐々木雄二・児玉正博 執筆者:本明寛 他 16 名		第 3 章トピックス 「技法のパッケージ」 各種認知行動療法における、認知的技法と行動的技法のパッケージの仕方について概説した。
14.	キャリアコンサルタント養成講座	共著 著者名:浅場道明・福井至・松尾裕子(以上 3 名で 1 冊を執筆している)	日本医療事務センター 2003 年	総ページ数 172 ページ 担当部分: P.43~P.76 「カウンセリングに関わる諸理論」 キャリアコンサルティングで用いられる特性因子論的カウンセリング、来談者中心カウンセリング、精神分析的カウンセリング、行動カウンセリング、認知行動カウンセリングのそれぞれについて詳述した。
15.	DAMS DAMS 使用の手引き	共著 著者名:福井至・木津明彦・陳峻雯・熊野宏明昭・坂野雄二	こころネット 2004 年 10 月 1 日	担当部分:質問紙作成および使用手引き書作成 本質問紙は、不安と抑うつとの弁別が医師の診断結果と一致する、不安と抑うつとの弁別の妥当性が高い我が国で唯一の標準化され出版された質問紙である。本質問紙の開発者として、出版用の質問紙の作成、および使用手引き書(全 11 ページ)の原案執筆を行った。その後、共同研究者である共著者 4 名(木津・陳・熊野・坂野)の修正意見等を調整し、最終的な出版を総責任者としておこなった。
16.	DACS DACS 使用の手引き	共著 著者名:福井至・坂野雄二	こころネット 2004 年 10 月 1 日	担当部分:質問紙作成および使用手引き書作成 本質問紙は、我が国で唯一の抑うつと不安を引き起こす自動思考を測定するための、標準化され出版された質問紙である。本質問紙の開発者として、出版用の質問紙の作成、および使用手引き書(全 7 ページ)の原案執筆を行った。その後、共同研究者である坂野雄二の修正意見等を調整し、最終的な出版版の作成を責任者としておこなった。
17.	JIBTR JIBTR 使用の手引き	単著	こころネット 2004 年 10 月 1 日	担当部分:質問紙作成および使用手引き書作成 本質問紙は、我が国で唯一の標準化され出版された不合理な信念を測定するための質問紙である。本質問紙の開発者として、出版用の質問紙の作成、および

18.	認知行動療法実践カード 認知行動療法実践カード使用マニュアル	単著	こころネット 2004 年 10 月 1 日	使用手引き書(全 10 ページ)の全ての作成をおこなった。 担当部分:認知行動療法における認知変容のためのカード全 119 枚の作成、および使用手引き書(全 15 ページ)の執筆をおこなった。 本カードは、否定的な自動思考を変容するためのカードである全 51 枚、不合理な信念を変容するためのカードである全 39 枚、パーソナリティ障害を引き起こす信念を変容するためのカードである全 29 枚からなるカウンセリングの専門家向けのものである。すでに、心療内科クリニックや臨床相談センター、および産業カウンセリング実施施設、教育研究所、およびうつ病患者の支援団体である MDA ジャパンなどのカウンセリング関連団体など、多くのカウンセリング場面で使用されている。
19.	非対面心理療法の基礎と実際	共著 編著者 岩本隆茂・木津明彦 他 15 名	培風館 2005 年 12 月 15 日	総ページ数 245 ページ 担当部分:p.229~p.228 「第 16 章コンピューター・アシスティブ・カウンセリング」 心理療法を実施するコンピューター・プログラムに関する研究史、および我が国で福井が開発してきた、コンピューター・アシスティブ・カウンセリング・プログラムの内容と、その効果検証実験の結果等について詳述した。
20.	GSES GSES マニュアル	共著 著者名:坂野雄二・東條光彦・福井至・小松智賀	こころネット 2006 年 5 月 28 日	担当部分:出版用質問紙の作成および使用手引き書作成 出版に関わる総責任者として、手引き書(全 16 ページ)の原案を執筆し、共著者の修正意見を調整し、最終出版物を作成した。また、質問紙に関しては、出版用質問紙を作成した。
21.	不安障害の臨床心理学	共著 編者:坂野雄二・丹野義彦・杉浦義典 著者:飯倉康郎 他 18 名	東京大学出版会 2006 年 9 月 26 日	総ページ数 222 ページ 担当部分:p.157~173 「第 8 章 不安と抑うつ」 不安障害とうつ病性障害に関する不安と抑うつについて、感情研究、症状の研究、診断分類、薬物療法の各視点からこれまでの研究を詳述した。また、不安

22.	SRS-18 SRS-18 マニュアル	共著 鈴木伸一・嶋田洋徳・ 坂野雄二・福井至・長 谷川誠	こころネット 2007年7月1日	障害とうつ病性障害に関する、Barlow らの3構造モデル、Beckの認知内容特 異性仮説、Alloyらの無力感-絶望感理論 を概説し、最後に福井の Depression and Anxiety Cognitive-Behavior Model について詳述した。 担当部分:出版用質問紙の作成および使 用手引き書作成 出版に関わる総責任者として、手引き 書(全18ページ)の原案を執筆し、共著 者の修正意見を調整し、最終出版物を作 成した。また、質問紙に関しては、出版 用質問紙を作成した。
23.	総合マニュアル	単著	こころネット 2008年6月1日	総ページ数80ページ 本マニュアルは、著書の14番~16番 のDAMS, DACS, JIBT-R, および19番の GSES といった質問紙、および著書の17 番の認知行動療法カードなどの使用方 法をまとめたものである。出版に関わる 総責任者として、手引き書(全80ページ) を作成した。また、質問紙に関しては、 出版用質問紙を作成した。
24.	図解による学習理論よる認知行動 療法	編集者 共著者:福井至・小松智 賀・中山ひとみ・高林 夏樹・宇佐美英里・内 山光則・矢野啓明	培風館 2008年7月10日	総ページ数233ページ 出版に関わる責任者として、本書の対 部分の原稿を執筆し、共著者の原稿の修 正や意見調整を行い、本書となった。本 書は、学習理論と行動療法、認知行動療 法を一冊で学習できることを目的とし、 認知行動療法の実践的な手引書となる よううつ病、全般性不安障害、パニック 障害、社会恐怖、強迫性障害などの具体 的な治療方法について詳述した。
25	認知行動療法の技法と臨床	共著 編者 内山喜久雄・坂 野雄二他44名	日本評論社 2008年10月25日	総ページ数323ページ 担当部分:p.100~104 第12章 新しいメディアと認知行動療 法—CCBTとVRET 最新のコンピュータ技術を用いた認 知行動療法についてまとめたものであ る。主に CCBT とバーチャル・リアリ ティー・エクスポージャー療法(VRET) について詳述あり、各治療法の概要と効 果についてまとめた。
26.	ピアカウンセリングの充実をめざ	共著	社団法人 日本筋ジ	総ページ数59ページ

	してーピアカウンセラーの手引き ーPart II	編著 福澤利夫	ストロフィー協会 2009 年 1 月 30 日	担当部分：p.1~p.12 ピアカウンセリングの基礎技法について、カウンセラーの基礎訓練とされているクライエント・センタード療法の基礎理論と実習方法について執筆した。特に、クライエント・センタード療法における不適応の考え方、カウンセラーの構え、積極的傾聴ための技法、カウンセリングの基礎技法習得のための実習方法について詳述した。
27.	不安障害の認知行動療法	共著 編者 坂野雄二・貝谷久宣・福井至・不安・抑うつ臨床研究会	日本評論社 2010 年 3 月 5 日	担当部分:p.65~78 社交不安障害の認知行動療法 社交不安障害に対する個人療法(ICBT)と集団療法(CBGT)について詳述した。
28.	臨床に活かす基礎心理学	共著 編者 坂本真士・杉山崇・伊藤絵美他 21 名	東京大学出版会 2010 年 3 月 30 日	総ページ数 249 ページ 担当部分:p.98~100 コラム 2 学習心理学と行動療法 学習心理学と行動療法について体系的に詳述するとともに、学習心理学と行動療法、および認知行動療法の関係について、連合理論、認知理論、社会的学習理論、認知行動理論を踏まえ、どのように発展したのかをまとめた。
29.	メンタルヘルス・ワークブック <SE 編>	共著 福井至・石井華・栗竹慎太郎・SE のメンタルヘルス研究会著	こころネット 2010 年 5 月 1 日	総ページ数 304 ページ 担当部分：すべてにわたって主執筆者として作成した。システム・エンジニアのメンタルヘルス不調を予防するための、認知行動療法に基づくワークブックである。
30	メンタルヘルス・ワークブック<看護師編>	共著 福井至・宇佐美英理・野口恭子・石井美伊・小長井カズ江・稲木康一郎・荻野佳代子・梅景正著	こころネット 2010 年 5 月 1 日	総ページ数 212 ページ 担当部分：すべてにわたって主執筆者として作成した。看護師の早期離職やバーンアウトを予防するための、認知行動療法に基づくワークブックである。
31.	社交不安障害	共著 監修 樋口輝彦 編著 貝谷久宣	新興医学出版社 2010 年 5 月 28 日	総ページ数 122 ページ 担当部分：p.95~p.114 社交不安障害に対する集団心理教育、スピーチ恐怖症に対する集団認知行動療法の実際、バーチャル・リアリティを用いた暴露療法について、それぞれプログラムの内容やプログラムの効果など図

32.	EBM 精神疾患の治療	編者：上島国利・三村将・中込和幸・平島奈津子	中外医学社 2011 年 3 月 15 日	や表を活用して詳述した。 総ページ 387 ページ 担当部分 p.152~156 「第 3 章 4. パニック障害に仮想現実による暴露は有効か？」 第 3 章 4 では(1)不安と特定の恐怖症に対する VR エクスポージャーの感情への効果についてのメタ解析、及び(2)パニック障害の治療における VR エクスポージャーと in vivo エクスポージャー及び統制群における研究が示されている。
33.	研修医のためのひとりでできることとからだの救急患者対応——これで楽勝！精神オンチが克服できるパーフェクトガイド——	編著：日本こころとからだの救急学会	メディカ出版 2011 年 11 月 10 日	総ページ数 199 ページ 担当部分 p. 176~183 「第 5 章医療技術としての医療面接—医療面接における面接技法について—」を担当した。問診的になりがちな医療面接において効果的な医師—患者関係を確立するための患者の感情に焦点を当てたラポール確立の技法を詳述した。
34.	図説認知行動療法ステップアップ・ガイド—治療と予防への応用—	編著：福井至	金剛出版 2011 年 11 月 30 日	総ページ数 287 ページ 認知行動療法による、高齢者、不安障害への治療、および教師、管理職、看護師、SE への予防を紹介している。これまで積み重ねた、研究を紹介している。
35.	図解 やさしくわかる認知行動療法	共著 福井至・貝谷久宣	ナツメ社 2012 年 7 月 6 日	総ページ数 160 ページ 認知行動療法の基本的な考え方と治療の流れをわかりやすく解説し、自分で取り組める実践法の紹介や、実際の治療で使用されるものをアレンジしたワークシートを掲載している。また病気や症状にあわせて行われる認知行動療法のバリエーションを紹介している。
36.	ぐっすり眠れる ドクターレッスンノート	共著 監修 貝谷久宣・福井至 編者 鈴木孝信	講談社 2012 年 11 月 29 日	総ページ数 99 ページ 本書では、認知行動療法の知見から、不眠を解消するセルフケアについて紹介している。簡単なチェックリストによる眠りの診断を行い、その指標をもとにセルフケアを行う構成となっている。また、巻末付録のワークシートに書き込むことで、自分専用のドクターレッスンノートを作成することも可能である。

37.	60 のケースから学ぶ認知行動療法	共著 監修：坂野雄二	北大路書房 2012 年 12 月 10 日	総ページ数 407 ページ 担当部分：p.183-187 不安障害・特定の恐怖症の症例を紹介。 飛行機恐怖症の患者に対するアセスメント、介入計画、介入経過、介入のポイントを紹介した。
38.	嘔吐恐怖 基礎から臨床まで	共著 監修：貝谷久宣 編者：野呂浩史	金剛出版 2013 年 1 月 20 日	総ページ数 275 ページ 担当部分：p.130-145 嘔吐恐怖症の評価基準となる質問紙の開発方法を行い、その後作成した尺度を用いた実際の治療効果の測定を紹介した。
39.	心がすっと軽くなる 認知行動療法ノート	監修 福井至・貝谷久宣	ナツメ社 2015 年 4 月 28 日	総ページ数 143 ページ 本書は、認知行動療法による認知と行動の変容を自分ひとりでできるようにした本である。認知変容は、心のつぶやき検証シートなどのシートへの記入で行うようになっている。また、行動の変容は、行動課題を自分で設定し、実施してみ、振り返りを行うことで、行えるようにしてある。
B	辞書			
1.	評価・診断心理学辞典	共著 監・編著者：本明 寛 著者名：福井至、他 166 名	実務教育出版 1989 年 1 月 31 日	総ページ数 526 ページ 担当部分：p.431～p.434 検査編 P-F スタディ P-F スタディについて、P-F スタディの概要、P-F スタディの内容(構成、実施法、大正、結果の処理とその解釈)の項目立てで解説した。
2.	健康心理学辞典	日本健康心理学会編 著者名：上里一郎他 134 名	実務教育出版 1997 年 10 月 25 日	総ページ数 337 ページ 担当部分：P.74 系統的脱感作法 ：P.188～P.189 漸進的筋弛緩法 ：P.202 脱感作 系統的脱感作法、漸進的筋弛緩法、脱感作の 3 項目について解説した。
3.	カウンセリング心理学事典	共著 監修：國分康孝他 239 名	誠信書房 2008 年 11 月 25 日	総ページ数 563 ページ 担当部分：P.180 認知療法のアプリケーション 認知療法の概要、認知療法および行動療法の展開、そして認知行動療法カウンセリングの発展について詳述した。

C	1.	翻訳 エイジング大辞典	共訳 共訳者：浜口晴彦・嵯峨座晴夫・春木豊・木村一郎・古市英・蔵持不三也、他 76 名	早稲田大学出版部 1990 年 12 月 25 日	総ページ数 818 ページ 担当部分：P327~P329 生活満足度：P570~P572 問題解決 生活満足度に関して、主観的満足の過去の研究と最新の調査について詳述した。 問題解決について、問題解決課題、年齢による差とその原因を詳述した。
	2.	認知行動療法 -心理療法の新しい展開-	共訳 監訳者：根建 金男 他 10 名	同朋舎出版 1992 年 2 月 1 日	総ページ数 295 ページ 担当部分：P99~P133 第 4 章 行動療法の技法における認知的要因 「第 4 章 行動療法の技法における認知的要因」 本書は、D.Meichenbaum 著の“COGNITIVE BEHAVIOR MODIFICATION：AN INTEGRATIVE APPROACH”（1977）の翻訳である。第 4 章では系統的脱感作法などの行動療法の技法を実施する過程においてもクライアントの認知が変容して効果が現れるということを論証している。
	3.	知的教育システムと学習	共訳 監訳者：菅井勝雄・野嶋栄一郎 他 12 名	共立出版株式会社 1992 年 5 月 25 日	総ページ数 370 ページ 担当部分：P313~P336 第 11 章 物理の問題解決における認知的節約仮説とその教材開発における意味 本書は、H. Mandl と A. Lesgold 編集の‘Learning Issues for Intelligent tutoring Systems’の翻訳である。第 11 章では、物理学の初学者においては、数式とグラフの両方用いるよりもどちらか一方だけで学習していく方が効果的であるという認知的節約仮説を立証する研究が示されている。
	4.	認知行動療法 -臨床と研究の発展-	共訳 監訳者：坂野雄二・岩本隆茂 他 11 名	金子書房 1998 年 10 月 20 日	総ページ数 217 ページ 担当部分：P151~164 「第 7 章 認知行動理論と認知行動療法における情動の扱い方」 著:ジェレミー・D・サフラン

5.	不安障害	共訳 監訳者:樋口輝彦・久保木富房・貝谷久宣・坂野雄二・野村忍・不安抑うつ臨床研究会 訳者:久保木富房他 11 名	日本評論社 2005 年 1 月 20 日	訳:福井 至 本書は P.M.Salkovskis 編集の ‘Trends in cognitive behavioral therapies’ の翻訳である。J.D.Safran 担当の第 7 章「認知行動理論と認知行動療法における情動の扱い方」においては、認知行動療法においてこれまでよりも広いアプローチをするための理論的なそして技術的な原則が要約されている。 総ページ数 529 ページ 担当部分:p.77～87 「第 6 章 不安の認知的概念」 著:アーサー・フリーマン ロバート・A・ディタマソ 訳:福井 至 本章は、不安障害を引き起こす認知内容の研究を詳述した章である。
6.	境界性パーソナリティ障害 臨床ガイドブック	監訳 監訳者:福井至・貝谷久宣 訳者:岩佐玲子他 3 名	日本評論社 2007 年 2 月 10 日	総ページ数 196 ページ 担当部分:全ページの監訳を行った。訳者が赤坂クリニックの後輩の臨床心理士であるため、訳に問題のあった第 1 章から第 2 章の 3 節までは、全体にわたって訳出し直した。また、第 2 章の 4 節から第 5 章までは、不適切な訳文の修正を行い、専門用語の統一を行った。
7.	認知行動療法事典	共訳 監訳者:内山喜久雄・大野裕・久保木富房・坂野雄二・沢宮容子・富家直明 訳者:足達淑子他 167 名	日本評論社 2010 年 12 月 25 日	総ページ数 492 ページ 担当部分: P.153～P.156 コンピュータとテクノロジー :P.347～P.352 認知行動療法のためのコンピュータ・プログラム 「コンピュータとテクノロジー」では、新たなテクノロジーが認知行動療法のアセスメントや治療に用いられるようになるまでの経緯を説明し、テクノロジーによって進歩したアセスメント技能の利点を挙げたうえで、テクノロジーを用いた認知行動療法の将来の可能性について言及している。 「認知行動療法のためのコンピュータプログラム」では、認知行動療法にコンピュータ・プログラムを使うことでの利点やこれからの課題を複数の先行研究を用いて言及している。

8.	エビデンス・ベースト心理療法シリーズ 児童虐待	監訳 監修者 貝谷久宣・久保木富房・丹野義彦 監訳者 福井至 訳者 福井至他1名	金剛出版 2012年4月3日	総ページ数 117 ページ 担当部分：全ページの監訳を行った。
9.	不安な脳 ー不安障害を効果的に治療するための神経生物学的基礎	監訳 監訳 貝谷久宣・福井至・不安・抑うつ臨床研究会	日本評論社 2012年10月20日	総ページ数 293 ページ 担当部分：vii～xv、P.225～266 「イントロダクション」「第10章社交不安障害の治療」 本書は、M. Wehrenberg & S. M. Prinz 著の“The Anxious Brain” (2007)の翻訳である。「イントロダクション」においては、不安と脳の関係を理解することの重要性とそれによる治療効果を概説している。第10章「社交不安障害の治療」においては、社交不安障害に対する様々な治療法について紹介した章である。
10.	スキーマモード・セラピー チェ・ヨンフィの統合心理療法から	監訳 監訳 福井至・日本行動療法学会第37回大会・第35回研修会準備委員会	金剛出版 2013年5月10日	総ページ数 164 ページ 担当部分：全ページの監訳を行った。

教 育 研 究 業 績 一 覧

Ⅱ. 学 術 論 文

番号	学 術 論 文 の 題 目	単 著 ・ 共 著 の 別 (トップネーム、他何名)	発行あるいは発表の 年 月 日 (西暦)	発行所・発表雑誌等 又は学会等の名称
1.	人間のオペラント行動に関する実験研究	共著 木村裕・福井至・細田 貞美	1953 年 3 月	早稲田心理学年報(早稲田大 学心理学会誌)第15巻 P43 ～62
2.	学校環境の評価に関する研究(1)ー評価基 準の検討ー	共著 相馬一郎・福井至他 11 名	1985 年 7 月	早稲田大学相馬研究室
3.	並立 VI・VIスケジュールによる人間の選 択行動	共著 福井至・木村裕	1986 年 3 月	早稲田心理学年報(早稲田大 学心理学会誌)第18巻 P37 ～P50
4.	報酬価と選択行動に関する一実験	共著 福井至・木村裕	1987 年 3 月	心理学研究(日本心理学会 誌)第58号 P109～P112
5.	ヒトの確率学習ー対応法則からのアプロ ーチー	共著 財前琢郎・福井至・木 村裕	1988 年 3 月	早稲田心理学年報(早稲田大 学心理学会誌)第20号 P1 7～P26
6.	Effects of reinforcement magnitude an d frequency on human choice behavior	共著 福井至・木村裕	1988 年 10 月	Japanese Psychological Research(日本心理学会誌) 第30号 P105～P113
7.	行動経済学	単著	1988 年 10 月	異常行動研究会誌第27号P1 8～P32
8.	体操競技における試技順の操作がチーム 得点に与える影響について	共著 高岡治・福井至・大橋 靖史	1989 年 3 月	人間科学研究(早稲田大学人 間科学部紀要)第2号 P27 ～P33
9.	生得的知能に関する実験研究ー後天的知 能との関連における解析ー	共著 福井 至・天正昌昭・ 大橋靖史・菅野純・重 久剛	1989 年 10 月	ヒューマンサイエンス(早稲 田大学人間総合研究センタ ー紀要)第2号 P49～P69
10.	Stress coping strategy and mode of co ping, in relation to proness to cancer and cardiovascular disease(I)・Analysi s in males,in	共著 重久剛・福井至・本明 寛	1989 年 12 月	健康心理学研究(健康心理学 会誌)第2号 P1～P11

	relation to their parents-			
11.	スピーチ不安とテスト不安を対象とした認知行動変容の研究動向と課題	共著 佐々木和義・根建金男・小川亮・石川利江・福井至・市井 雅哉・越川 房子	1990 年 2 月	行動療法研究（日本行動療法学会誌）第 16 号 P45～P65
12.	体操競技における演技の採点に時間経過が与える影響について	共著 高岡治・福井至	1990 年 3 月	人間科学研究（早稲田大学人間科学部紀要）第 3 号 P127～P131
13.	ストレスへの対処を考える—認知的対処を中心として—	共著 坂野雄二・福井至	1990 年 4 月	ストレス科学研究（ストレス科学研究所紀要）第 5 号 P1～P8
14.	企業における中間管理職のストレス調査	共著 内田武一・玉野昌子・香椎健太郎・野間聖明・加納恵・福井至・酒井礼安・坂野雄二	1990 年 4 月	ストレス科学研究（ストレス科学研究所紀要）第 5 号 P9～P22
15.	加齢とストレス	共著 壺岐和男・廣島真理子・佐伯純代・若間希依・滝口政江・福井至・畠中幸枝・坂野雄二	1990 年 4 月	ストレス科学研究（ストレス科学研究所紀要）第 5 号 P23～P39
16.	家庭生活における夫と妻のストレス	共著 市川欣子・仲田紀子・国重恵子・新里登美枝・桑原啓子・三尾悦子・小熊和子・福井至・坂野雄二	1990 年 4 月	ストレス科学研究（ストレス科学研究所紀要）第 5 号 P40～56
17.	中学生のストレスとその対処行動としての電話の役割	共著 市川容子・本間靖子・大木よしい・矢野久美子・嶋田美栄子・利谷文子・野田彰久・福井至・坂野雄二	1990 年 4 月	ストレス科学研究（ストレス科学研究所紀要）第 5 号 P57～P67
18.	視覚刺激を無条件刺激として用いたヒトの自動反応形成の試み	共著 木村裕・福井至・稲木康一郎	1990 年 12 月	心理学研究（日本心理学会誌）第 61 号 P351～P355
19.	短期大学（部）におけるカリキュラムの研究	共著	1991 年 3 月	札幌大学女子短期大学部

	究開発 ー情報処理技術者試験のための個別学習システムの開発ー	佐藤勝彦・福井至		紀要第 17 号 P57～P70
20.	両親の養育時の行動特性と、親・子の性格特性	共著 福井至・大橋靖史・菅野純・重久剛・春木豊	1991 年 3 月	行動療法研究（日本行動療法学会誌）第 17 号 P12～P19
21.	ARSS（青少年版強化子調査票）日本版作製の試み（Ⅰ）	共著 坂野雄二・G.R. Holmes・越川房子・石川利江・福井至・佐々木和義	1991 年 3 月	人間科学研究（早稲田大学人間科学部紀要）第 4 号 P27～P36
22.	体操競技の採点における 時間経過の影響と性格特性の関連について	共著 高岡治・福井至・塚脇伸作	1991 年 3 月	体育研究紀要（早稲田大学体育局紀要）第 23 号 P1～P6
23.	Stress coping strategy and mode of coping, in relation to proness to cancer and cardiovascular disease(Ⅱ)-Analysis in females and their parents, in comparison with males and their parents-	共著 重久剛・福井至・本明寛	1991 年 6 月	健康心理学研究（日本健康心理学会誌）第 4 号 P8～P22
24.	コンピューター学習環境の分析	共著 福井至・佐藤勝彦・村田茂昭	1991 年 9 月	行動療法研究（日本行動療法学会誌）第 18 号 P81～P87
25.	社会的不安尺度 FNE・SADS の日本版標準化の試み	共著 石川利江・佐々木和義・福井至	1992 年 3 月	行動療法研究（日本行動療法学会誌）第 18 号 P10～P17
26.	家庭での学習習慣の形成・維持に及ぼすモデリングの効果	共著 福井至・村上満・坂野雄二	1992 年 9 月	札幌大学女子短期大学部紀要第 20 号
27.	女子学生における理想の女性像と自己概念そして自己教育力について	共著 福井至・佐藤勝彦・能登洋子・天正 昌昭	1993 年 3 月	札幌大学女子短期大学部 25 周年記念論文集 P161～P176
28.	法律問題と心理問題の相談内容とその傾向	共著 福井明・福井至	1993 年	札幌大学学生相談室報告書（札幌大学学生相談室）第 10 号 p11～p14
29.	学生相談室に新に設置されたコンピュータ・カウンセリングのシステムについて	単著	1994 年	札幌大学学生相談室報告書（札幌大学学生相談室）第 11 号 p47～p57

30.	コンピューター・アシステッド・カウンセリングが有効であった社会不安を主症状とする2症例	単著	1994年9月	札幌大学女子短期大学部紀要第24号 P49～P59
31.	論理情動療法に基づくCACの不合理な信念の変容と不安低減に及ぼす効果	共著 福井至・西山薫	1995年9月	行動療法研究(日本行動療法学会誌)第21号 P79～P91
32.	Cancer-prone Type C personality toxic component: Suppression of emotion	共著 重久剛・福井至	1995年11月	Japanese Health Psychology, No3 P1～P10
33.	高齢者を対象とした行動療法の研究動向と課題	共著 福井至・福井いくよ	1995年12月	北方圏生活福祉研究所年報 P1～P11
34.	論理情動療法に基づく不合理な信念の変容のためのプログラムド・テキストの効果	単著	1996年3月	杉山 善朗教授退官記念論文集 P19～P25
35.	効果的な家庭学習法を示す象徴モデリングの学習適応性に及ぼす効果	共著 福井至・窪田小弓・海野和夫・坂野 雄二	1996年3月	札幌大学女子短期大学部紀要第27号 P19～P30
36.	本邦における認知療法、認知行動療法、生活技能訓練および社会的技能訓練の動向	共著 高沢加代子・田村嘉子・木津明彦・福井至・岩本隆茂・千丈雅徳・斉藤康子・斉藤巖	1996年9月	行動療法研究(日本行動療法学会誌)第22号 P21～P42
37.	Depression and Anxiety Mood Scale (DAMS)開発の試み	単著	1997年9月	行動療法研究(日本行動療法学会誌)第23号 P83～P93
38.	DAMS (Depression and Anxiety Mood Scale)の成人への適用可能性と臨床的妥当性および有用性の検討	共著 福井至・木津明彦・田村嘉子・千丈雅徳・奥瀬哲	1997年10月	北海道心理学研究(北海道心理学学会誌)第20号 P63～P71
39.	ヒトの遅延割引の現象を表現するための関類型の推定	共著 福井至・久野弘道・北舘努・山田弘司・駒木泰・岩本隆茂	1997年12月	行動科学(日本行動科学学会)第36号 P33～P46
40.	抑うつと不安の気分と症状との関連	単著	1998年3月	北海道女子大学紀要増刊号 P1～P13
41.	老年期の社会適応に影響を及ぼす心理的要因—両者の関連—	共著 杉山善朗・福井至・竹川忠男・稲田尚史	1998年4月	老年精神医学雑誌第9巻 P364～P371

42.	Depression and Anxiety Cognition Scale (DACS)の開発・抑うつと不安の認知行動モデルの構築に向けて-	単著	1998 年 9 月	行動療法研究 (日本行動療法学会誌) 第24号 P57~P70
43.	抑うつと不安の両者を含む認知行動モデルに関する展望	共著	1999 年 3 月	北海道女子大学紀要第2号 P21~P34
44.	抑うつと不安における不合理な信念と自動思考および気分の関連	共著 福井至・坂野雄二	2000 年 3 月	北海道女子大学紀要第3号 P1~P12
45.	抑うつと不安の関係を説明する認知行動モデルの構築と検証	単著	2000 年 6 月	ヒューマンサイエンスリサーチ(早稲田大学大学院人間科学研究科)第 9 巻 p374~p377
46.	人間行動の実験的分析の展望	単著	2002 年 10 月	行動分析学研究(日本行動分析学会誌)第 17 号 P5~P19
47.	論理情動行動療法に基づく Computer-Assisted Counseling プログラム改良版の効果	共著 佐藤洋一・福井至・岩本隆茂	2002 年 8 月 19 日	行動療法研究 (日本行動療法学会誌) 第 28 巻 P 47~P 62
48.	JIBT と DACS および DASI の改訂版の開発	単著	2003 年 3 月	東京家政大学臨床相談センター紀要 第 3 集 P29~P48
49.	心的変化過程としての許しを用いた心理療法について	共著 福井至・近喰ふじ子・橋口英俊	2004 年 3 月 1 日	東京家政大学附属臨床相談センター紀要 第 4 集 P45~P52
50.	Positive Mood Scale(PMS)の開発	単著	2004 年 2 月 1 日	東京家政大学研究紀要 第 44 集 P227~P233
51.	認知行動療法における精神障害の見方と治療姿勢	単著	2004 年 6 月 28 日	精神科(科学評論社) 第 4 巻 第 6 号 P370~P374
52.	肯定的認知行動モデルの構築	単著	2005 年 3 月 31 日	東京家政大学附属臨床相談センター紀要 第 5 集 P71~P80
53.	全般性不安障害の心理療法	単著	2005 年 7 月 28 日	心療内科(科学評論社) 第 9 巻 4 号 P255~P260
54.	簡単な認知行動療法実施法	単著	2006 年 5 月 28 日	精神科(科学評論社) 第 8 巻 第 5 号 P373-P378
55.	心身症の治療-CCBT と VR エクスポージャー-	単著	2006 年 9 月 28 日	心療内科(科学評論社) 第 10 巻 5 号 P329~332

56.	臨床心理学の最新知見 パーチャル・リアリティ・エクスポージャー法	単著	2007年3月10日	臨床心理学(金剛出版) 第7巻第2号 p.269-273
57.	Personality Disorder Schema Scale (PDSS) と Personality Disorder Symptom Inventory (PDSI)の構成概念妥当性の検証	共著 福井至・山崎恵	2007年3月31日	東京家政大学附属臨床相談センター紀要 第6集 p.25~34
58.	恐怖症への EMDR の適用—エクスポージャー法との併用について	単著	2008年6月31日	こころのりんしょう(星和書店)27巻2号 P271~P276
59.	認知行動療法	単著	2009年3月28日	心療内科(科学評論社) 第13巻2号 p.103-110
60.	子育て支援に対するセルフ・エフィカシー尺度開発の試み	共著 福井至・長谷川誠・手塚成美・佐々木聰子・片岡輝	2010年3月31日	東京家政大学附属臨床相談センター紀要 第10集 P35~42
61.	不安障害治療法の発展(特集 この10年間で精神科治療はどう変わったか)	2010年5月 著者名:種市摂子・福井至・貝谷久宣	2010年5月28日	精神科(科学評論社)第16巻5号 P406-411
62.	コンピュータによる認知行動療法の現在	共著 福井至・川副暢子・小松智賀・貝谷久宣*	2011年2月	精神科(金剛出版)第37巻第1号
63.	対人援助職のための認知・行動療法 マニュアルから抜け出したい臨床家の道具箱	単著	2011年10月	精神療法(金剛出版)第37巻第5号 p.644-645
64.	スピーチ恐怖の自動思考を測定する質問紙(Speech Phobia Automatic Thoughts Questionnaire: SPATQ)の開発	共著 梅原沙衣加・福井至・近喰ふじ子	2013年8月31日	認知療法研究第6巻2号 p.161~p.168
65.	社交不安症(社交恐怖)[社交不安障害]の集団認知行動療法	共著 野口恭子・小松千賀・福井至・吉田栄治・貝谷久宣	2015年2月28日	認知療法研究第8巻1号 p.27~p.36

教 育 研 究 業 績 一 覧

Ⅲ. その他

番号	項 目	発行あるいは発表の 年月日(西暦)、場所	概 要
B.	国際学会発表		
1.	Behavior characteristics of parents engaged in childrearing, in relation to their personality and children's personality.	1990 年 7 月 2 nd International Congress of Applied Psychology(Abstract, 152) 発表者: 福井至・大橋靖史・菅野純・重久剛・春木豊	親の性格や養育態度と子どもの性格との関係について検討した。1. 子どもの向性と父親の向性, 2. 子どもの自己実現性と, 母親と父親のタフ傾向と父親の情動性, 3. 子どもの向性と, 両親のおしつけ強化と母親の認め強化の間に有意な相関が認められることが明らかになった。
2.	Toward construction of a cognitive-behavioral model which can explain the comorbidity of depression and anxiety.	2001 年 7 月 2001 World Congress of Behavioral and Cognitive Therapy. 発表者: 福井至・坂野雄二	抑うつと不安の関係を説明する新しい認知行動モデルである Depression and Anxiety Cognitive-Behavior Model (DAC モデル) の構築について発表する予定であり、すでに受理されている。発表内容は、博士学位論文にも含まれている、学術論文 37, 39, 41 をまとめたものである。
3.	The construction of a cognitive-behavioral Model of personality disorders	2004 年 7 月 21 日 World Congress of Behavioral and Cognitive Therapies 2004 (Abstracts, 199) 発表者: 福井至・山崎恵・近喰ふじ子(共著) 開催場所: 神戸	人格障害の認知行動モデルについて発表した。人格障害の症状を測定する Personality Disorder Symptom Inventory (PDSI) と、それを引き起こすスキーマを測定する Personality Disorder Schema Scale (PDSS)を開発し、それらを用いた調査結果を共分散構造分析を用いて分析し、人格障害の認知行動モデルを構築した。
4.	“Recent development of cognitive behavior therapy: CBT meets the new technology”	2006 年 8 月 29 日 国際サイコセラピー会議イン・ジャパンおよび第3回アジア国際サイコセラピー会議 発表者: 福井至(単著) 開催場所: 東京 京王プラザホテル	英国で健康保険の適用が可能となった、インターネットを利用したカウンセリングプログラムである Computerized Cognitive-Behavior Therapy と、Virtual Reality Exposure について、福井研究室および東京サイバークリニックでの研究成果も含め発表および討議を行った。
5.	Depression and Anxiety Cognitive-Behavioral Model including Coping Style	2006 年 8 月 29 日 国際サイコセラピー会議イン・ジャパンおよび第3回アジア国際サイコセラピー会議 (発表抄録, p. 136)	本研究は、ストレス対処行動を測定するための質問紙を開発し、抑うつと不安の認知行動モデルに対処行動の要素を含んだモデルへ拡張することであった。ストレス対処行動を測定する質問紙として、The Style of Coping Scale(SOCS)を作成した。その後、SOCS-Rが開発され、7つの下位尺度からなり、各4項目、合計28項目で構成されている。そこで、抑うつと不安の気分、自

		発表者:内山光則・福井至(共著) 開催場所:東京	動思考、症状のそれぞれを測定する質問紙と SOCS-R を実施し、その各尺度得点を用いてパス解析を行なった。その結果、抑うつと不安の認知行動モデルは対処行動の要素を含むモデルへと拡張された。
6.	The construction of a Cognitive-Behavioral Model of Obsessive-Compulsive Disorder.	2007 年 7 月 14 日 World Congress of Behavioral and Cognitive Therapies 2007 (Poster Abstracts Saturday, p.6) 発表者:福井至・矢野啓明・高林夏樹・野口恭子(共著) 開催場所:バルセロナ	強迫性障害の認知行動モデルについて発表した。強迫性障害の症状を測定する ODSI と、強迫性障害のスキーマを測定する OSS を開発し、それらを用いた調査結果をパス解析で分析し、強迫性障害の認知行動モデルを構築した。
7.	Verification of the Effectiveness of Exposure Therapy for Spider Phobia Using Near-Infrared Spectroscopy.	2007 年 7 月 14 日 World Congress of Behavioral and Cognitive Therapies 2007 (Poster Abstracts Saturday, p.8) 発表者:長谷川誠・福井至・梅景正・Douglas Eames・宇佐美英里・吉田栄治・貝谷久宣(共著) 開催場所:バルセロナ	クモ恐怖症者 2 名に対し、集中的エクスポージャー法を 3 日間にわたり実施し、その際に、脳血液量変化が測定できる近赤外線分光法(Near-infrared spectroscopy:以下 NIRS と略記する)を用いて、治療前後の脳機能変化および VR エクスポージャー時の脳機能の変化を明らかにすることを目的とした。その結果、両名ともに治療前はビンに入っているクモを 2m 以上近づけられなかったが、治療後には、ビンに入っているクモを持つことができ治療された。NIRS 所見としては、治療前には前頭葉の脳血流量が増加していたが、治療後には増加量が低減した。また、Virtual Reality を用いた VR エクスポージャー法時に、前頭葉の増加が見られたが、その増加は 18 分経過後から低減し始めた。このことは、エクスポージャーの効果が発揮されるまでに 20 分程度必要であるというこれまでの知見と一致している。
8.	A randomized controlled trial (RCT) of computerized cognitive-behavior therapy (CCBT) for panic disorder with agoraphobia.	2010 年 6 月 3 日 World Congress of Behavioral and Cognitive Therapies 2010 (Dissertation Abstract of 6 th World Congress of Behavioral and Cognitive Therapies, p. 81) 発表者:福井至・小松智賀・Douglas Eames・正木美奈・野口恭子・梅影正・吉田栄治・貝谷久宣(共著) 開催場所:ボストン	広場恐怖を伴うパニック障害用のインターネットを介した認知行動療法プログラム(ICBT)を開発し、その効果を RCT デザインで検証した。実験参加者は赤坂クリニックに受診している広場恐怖を伴うパニック障害の患者であり、ICBT 群(男性 15 名、女性 37 名)、CCBT と同様の内容の認知行動療法をカウンセラーが実施するカウンセラー群(男性 10 名、女性 28 名)、および薬物療法のみの統制群(男性 9 名、女性 28 名)にランダムに振り分けられた。PDSS-J, HAM-A, DASS, PAC を治療前後に実施し、効果を検証した。Intention-to-Treat 分析による分散分析の結果、すべて交互作用が有意であり、薬物療法単独よりも、カウンセラー群と ICBT 群の方がポストテスト時点で、各尺度の得点は低くなっていた。つまり、心理療法家による認知行動療法群と ICBT 群ではほぼ差がなく、どちらも統制群よりも治療効果が高いことが明らかとなった。
9.	The structure of early	2011 年 7 月 14 日	Young(1990)の提唱する 5 領域 18 下位尺度から構成される早

	maladaptive schemas in a Japanese sample: A confirmatory factor analysis of the Young Schema Questionnaire	3rd Asian Cognitive Behavioral Therapy Conference (Abstbook p.74-p.75) 発表者：福井至・梅原沙衣加・鈴木孝信・瀧ヶ崎隆司・菅谷渚・貝谷久宣	期不適応的スキーマ(EMS)のモデル構造を、日本人サンプルで検討することを目的とした。調査はEMSを測定する Young Schema Questionnaire の短縮版(YSQ-S3)の日本語版を用いて行った。その結果、日本人では Young の提唱している 5 領域モデルではなく、Hoffart et al.(2005)の示している 4 領域モデルが適切であることが明らかになった。
--	--	---	---